

平成22年3月期

第2四半期累計期間（4月～9月）

決算補足資料（連結）

平成22年3月期

第2四半期累計期間（4月～9月）決算補足資料（連結）

小野薬品工業(株)

- P. 1・・・連結業績の状況、セグメント情報、連単倍率、経営指標
- P. 2・・・平成21年度（22年3月期）第2四半期累計期間（4月～9月）の連結決算業績
（①売上高、②営業利益、③経常利益、④四半期純利益）
- P. 3・・・主な製品の売上高、海外売上高
- P. 4・・・平成21年度（22年3月期）の連結決算業績（見込み）
（①売上高、②営業利益、③経常利益、④当期純利益）
- P. 5・・・連結決算業績（見込み）、主な製品の売上高（見込み）
- P. 6・・・連結キャッシュ・フローの状況
- P. 7・・・連結損益計算書
- P. 8、9・・・連結貸借対照表
- P. 10・・・連結株主資本等変動計算書
- P. 11・・・退職給付債務の状況について
- P. 12・・・減価償却費・設備投資額、期末従業員数
- P. 13・・・株式の状況
- P. 14-16・・・開発品の進捗状況・主な開発品

平成 21 年度（平成 22 年 3 月期）第 2 四半期連結累計期間決算

連結業績の状況

（単位：億円）

	20 年度 第 2 四半期累計 実績	21 年度 第 2 四半期累計 予想	21 年度 第 2 四半期累計 実績	予想比	前年 同期間比
売上高	659	665	671	1.0%	1.8%
営業利益	207	205	223	9.2%	8.1%
経常利益	224	217	241	11.1%	7.2%
四半期純利益	138	135	159	17.9%	14.6%

セグメント情報

（1）当第 2 四半期累計期間の部門別業績の概況 （2）当第 2 四半期累計期間の海外売上高の概況

（単位：億円）

事業部門	売上高
医薬品事業	671

（単位：億円）

地 域	売上高
本 邦	655
海 外	16

連単倍率

	20 年度 第 2 四半期累計	21 年度 第 2 四半期累計
(損益計算書関係)		
売上高	1.02	1.01
営業利益	1.02	1.02
経常利益	1.02	1.02
四半期純利益	1.01	1.01
(貸借対照表関係)		
総資産	1.02	1.02
純資産	1.02	1.02

経営指標

	20 年度 第 2 四半期累計	21 年度 第 2 四半期累計
一株当たり四半期純利益	125.00 円	146.35 円
一株当たり純資産	3,672.91 円	3,698.81 円
自己資本比率	90.2%	92.3%

平成21年度(22年3月期)第2四半期累計期間(4月～9月)の連結決算業績

①売上高 671億円 前年同期比 1.8%増 (前年同期659億円)

主要製品の売上ですが、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」は、腰部脊柱管狭窄症の適応領域で使用拡大がさらに進み、前年同期比16億円(8.5%)増の208億円となりました。また、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」は、引き続き積極的な情報提供活動に努めました結果、前年同期比5億円(4.8%)増の111億円となりました。さらに一昨年6月に発売しました過活動膀胱治療剤「ステーブラ錠」は、当該市場での育成が着実に進み前年同期比12億円増の18億円となりました。なお、本年4月に新発売しました骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」の売上は2億円でした。

一方、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」は、引き続き潜在市場の開拓活動を積極的に進めましたが、後発品の影響などにより、前年同期比4億円(5.5%)減の77億円となりました。また、気管支喘息(小児)治療剤「オノンドライシロップ」は、競合品との競争激化の影響などにより前年同期比1億円(3.5%)減の37億円となりました。

②営業利益 223億円 前年同期比 8.1%増 (前年同期207億円)

売上高が前年同期比11億円(1.8%)増の671億円となり、売上原価が前年同期比3億円(3.1%)減の99億円、販売費及び一般管理費が前年同期比1億円(0.5%)減の348億円となりました結果、営業利益は前年同期比16億円(8.1%)増の223億円となりました。

なお、販売費及び一般管理費のうち、研究開発費につきましては、前年同期比7億円(4.4%)増の187億円となりました。

また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、経費の効率化に努めました結果、前年同期比9億円(5.5%)減の161億円となりました。

③経常利益 241億円 前年同期比 7.2%増 (前年同期224億円)

営業外収支が前年同期とほぼ同額の17億円となりましたので、経常利益は前年同期比16億円(7.2%)増の241億円となりました。

④四半期純利益 159億円 前年同期比 14.6%増 (前年同期138億円)

前年同期の特別損益は、特別利益として投資有価証券売却益13億円を計上した一方で、特別損失として投資有価証券評価損12億円を計上したことにより、差し引き1億円の利益でしたが、当第2四半期累計期間には、特別利益として、過年度研究開発費の戻入益2億円を計上したことなどから、利益が前年同期比1億円増加しました。

また、今期から、試験研究費の税額控除の上限が拡大されたこともあり、税金費用が前年同期比2億円減少しました。

以上の結果、四半期純利益は前年同期比20億円(14.6%)増の159億円となりました。

主な製品の売上高

(単位：億円)

	20年度		21年度		
	第2四半期累計 (実績)	通期 (実績)	第2四半期累計 (実績)	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
オパールモン	191	381	208	+16	+8.5%
オノン	106	244	111	+5	+4.8%
キネダック	82	158	77	▲4	▲5.5%
フオイパン	62	121	61	▲1	▲1.9%
オノンドライシロップ	39	89	37	▲1	▲3.5%
エラスポール	24	50	24	▲0	▲0.3%
ステーブラ	6	22	18	+12	+182.9%
オノアクト	13	27	14	+1	+9.1%
リカルボン	—	—	2	+2	—

* 上記製品別の売上高は、経理ベースで記載しております。

海外売上高

(単位：億円)

	20年度 第2四半期累計	20年度 通期	21年度 第2四半期累計
輸出高	14	30	16
海外特許料収入	0	13	0
海外売上高合計	14	44	16
売上高比率	2.2%	3.2%	2.5%

主要輸出先

韓国、イタリア、台湾、ドイツ、メキシコなど

主要輸出品目

オパールモン、オノン、プロスタンディン、フオイパン、
エフオーワイ、プレグランディンなど

平成21年度(22年3月期)の連結決算業績(見込み)

①売上高 1,379億円 前期比1.0%増(20年度1,365億円)

本年4月に新発売しました骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」や、既存の主力製品である末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」、過活動膀胱治療剤「ステーブラ錠」、手術時および手術後の頻脈性不整脈治療剤「注射用オノアクト」等で売上拡大を図るものの、後発品の普及が一層進むことによる影響などで、売上高は前期比13億円(1.0%)の増加に留まる見込みです。

②営業利益 405億円 前期比6.8%減(20年度434億円)

売上高を前期比13億円(1.0%)増の1,379億円と見込む一方で、売上原価を前期比5億円(2.7%)増の219億円、販売費及び一般管理費を前期比37億円(5.2%)増の755億円と見込むことにより、営業利益は前期比29億円(6.8%)減の405億円を予想しています。

なお、販売費及び一般管理費のうち、研究開発費につきましては、引き続き積極的に国内外で研究開発活動を推進することから、前期比24億円(6.3%)増の408億円となる見込みです。

また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、前期から13億円(4.0%)増の347億円になる見込みです。

③経常利益 429億円 前期比8.2%減(20年度467億円)

金利低下による運用収入の減少もあり、営業外収支が前期比8億円減少すると見込まれることから、経常利益は前期比38億円(8.2%)減の429億円を予想しています。

④当期純利益 283億円 前期比19.1%増(20年度237億円)

特別損益については、前期に計上した投資有価証券売却益13億円や投資有価証券評価損78億円に相当する損益を22年3月期は想定しないことなどから、前期比66億円損失が減少する見込みです。

また、今期から試験研究費の総額に係る税額控除額の上限が拡大され税負担が減少するため、当期純利益は前期比45億円(19.1%)増の283億円を予想しています。

連結決算業績（見込み）

（単位：億円）

	19年度	20年度	21年度 見込み	20年度比
売上高	1,458	1,365	1,379	+1.0%
営業利益	522	434	405	▲6.8%
経常利益	551	467	429	▲8.2%
当期純利益	350	237	283	+19.1%

主な製品の売上高（見込み）

（単位：億円）

	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (見込み)
オパールモン	373	381	1桁台後半の伸び
オノン	271	244	5%程度の減少
キネダック	174	158	微減
フオイパン	134	121	5%程度の減少
オノンドライシロップ	110	89	1桁台後半の減少
エラスポール	54	50	5%程度の伸び
オノアクト	19	27	20%台半ばの伸び
ステーブラ	5	22	ほぼ倍増
リカルボン	—	—	10～15億円

* 上記製品別の売上高は、経理ベースで記載しております。

連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	20年度 第2四半期累計	21年度 第2四半期累計	増減
現金及び現金同等物期首残高	474	534	
営業活動によるキャッシュ・フロー	150	172	+21
投資活動によるキャッシュ・フロー	317	141	▲176
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲392	▲97	+294
増減（現金及び現金同等物）	76	217	
現金及び現金同等物期末残高	550	751	

(注) 各年度の▲はキャッシュの流出を示しています。

(増減の主な内容・・・カッコ内は、20年度第2四半期累計→21年度第2四半期累計)

- ①営業活動によるキャッシュ・フロー 21 億円増加
税金等調整前四半期純利益の増加 17 億円 (225 億円→243 億円)
- ②投資活動によるキャッシュ・フロー 176 億円減少
有価証券及び投資有価証券の償還等による収入と取得による支出の差額
▲167 億円 (325 億円→158 億円)
- ③財務活動によるキャッシュ・フロー 294 億円増加
自己株式取得の減少 265 億円 (▲265 億円→▲0 億円)
配当の支払いの減少 29 億円 (▲126 億円→▲97 億円)

連結損益計算書

(単位：億円)

	20年度 第2四半期累計	21年度 第2四半期累計	増減
売上高	659	671	+11
(前年同期比増減率)	▲7.5%	+1.8%	
売上原価	102	99	▲3
(対売上高比率)	15.6%	14.8%	
販売費・一般管理費	350	348	▲1
(対売上高比率)	53.0%	51.9%	
(内、研究開発費)	179	187	+7
(対売上高比率)	27.2%	27.9%	
営業利益	207	223	+16
(前年同期比増減率)	▲21.8%	+8.1%	
(営業利益率)	31.4%	33.3%	
営業外収益	20	18	▲1
営業外費用	2	1	▲1
経常利益	224	241	+16
(前年同期比増減率)	▲19.6%	+7.2%	
(経常利益率)	34.1%	35.9%	
特別利益	13	2	▲10
特別損失	12	0	▲11
税金等調整前四半期純利益	225	243	+17
法人税・住民税及び事業税	85	82	▲2
少数株主利益	1	1	▲0
第2四半期純利益	138	159	+20
(前年同期比増減率)	▲19.2%	+14.6%	
(第2四半期純利益率)	21.0%	23.7%	

(* 1)

(* 2)

(* 3)

(* 1) 研究開発費が7億円増加した理由

委託研究費が3億円、海外治験委託費用が3億円減少する一方で、ライセンス料の支払いが13億円増加しました。

(* 2) 特別利益の内容

前年同期には投資有価証券売却益13億円を、当第2四半期累計期間には過年度に計上した研究開発費が開発中止に伴い返金されたことによる戻入益2億円を計上しました。

(* 3) 特別損失の内容

前年同期には投資有価証券評価損12億円を、当第2四半期累計期間には投資有価証券評価損3千万円を計上しました。

連結貸借対照表 資産の部

(単位:億円)

	20年度 第2四半期	20年度 通期 (B)	21年度 第2四半期 (A)	増減(A)-(B)
流動資産	(1,847)	(1,805)	(1,854)	(+48)
現金及び預金	156	141	125	▲15
受取手形及び売掛金	355	394	339	▲55
有価証券	1,069	1,029	1,111	+82
たな卸資産 (※1)	105	100	134	+33
その他	160	140	144	+4
貸倒引当金	▲0	▲0	▲0	+0
固定資産	(2,580)	(2,407)	(2,503)	(+96)
有形固定資産	(506)	(505)	(504)	(▲0)
建物及び構築物	244	243	235	▲8
機械装置及び運搬具	21	18	17	▲1
土地	225	225	225	—
建設仮勘定	4	7	16	+9
その他	12	10	10	▲0
無形固定資産	(10)	(10)	(10)	(+0)
投資その他の資産	(2,063)	(1,891)	(1,988)	(+96)
投資有価証券 (※2)	2,006	1,783	1,900	+117
その他	56	108	87	▲20
貸倒引当金	▲0	▲0	▲0	—
資産の部合計	(4,427)	(4,212)	(4,357)	(+145)

(参考)

*金融資産（現金及び預金、有価証券、投資有価証券の合計）の推移

(単位:億円)

	20年度第2四半期 (20年9月末)	20年度(21年3月末)	21年度第2四半期 (21年9月末)
金融資産残高	3,233	2,953	3,137

連結貸借対照表 負債及び純資産の部

(単位:億円)

	20年度 第2四半期	20年度 通期 (B)	21年度 第2四半期 (A)	増減(A)-(B)
負債の部	(400)	(312)	(300)	(▲12)
流動負債	(223)	(254)	(267)	(+13)
支払手形及び買掛金 (※1)	32	34	62	+28
短期借入金	0	0	0	—
未払法人税等	83	91	80	▲10
販売促進引当金等	12	13	11	▲1
賞与引当金	38	38	38	+0
その他流動負債	56	77	75	▲2
固定負債	(176)	(57)	(32)	(▲25)
長期借入金	0	0	0	▲0
退職給付引当金 (※3)	103	21	0	▲20
その他	72	36	31	▲4
純資産の部	(4,027)	(3,900)	(4,057)	(+157)
株主資本				
資本金	173	173	173	—
資本剰余金	170	170	170	—
利益剰余金	4,224	4,225	4,286	+61
自己株式 (※4)	▲634	▲634	▲634	▲0
株主資本合計	3,934	3,935	3,996	+61
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金 (※2)	148	21	115	+93
土地再評価差額金	▲89	▲89	▲89	—
為替換算調整勘定	▲0	▲2	▲1	+0
評価・換算差額等合計	59	▲69	24	+94
少数株主持分	33	34	35	+1
負債及び純資産合計	(4,427)	(4,212)	(4,357)	(+145)

(※1) 新製品の発売準備の為に半完成品を仕入れたことなどによる。

(※2) 保有有価証券の含み益の増加などによる。

(※3) 新たに退職給付信託を50億円設定したことにより、退職給付引当金を取崩したことなどによる。

(※4) 自己株式数 21年3月末累計株数 1,210万株
21年9月末累計株数 1,211万株

連結株主資本等変動計算書 (21年度第2四半期累計期間)

(単位：億円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計
前期末残高	173	170	4,225	▲634	3,935
当第2四半期累計変動額					
剰余金の配当			▲97		▲97
当期純利益			159		159
自己株式の取得				▲0	▲0
株主資本以外の項目の 当第2四半期累計変動額(純額)					
当第2四半期累計変動額合計	-	-	61	▲0	61
当第2四半期末残高	173	170	4,286	▲634	3,996

	評 価 ・ 換 算 差 額 等				少数株主 持分	純資産 合計
	その他 有価証券 評価 差額金	土地 再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等 合計		
前期末残高	21	▲89	▲2	▲69	34	3,900
当第2四半期累計変動額						
剰余金の配当						▲97
当期純利益						159
自己株式の取得						▲0
株主資本以外の項目の 当第2四半期累計変動額(純額)	93		0	94	1	95
当第2四半期累計変動額合計	93	-	0	94	1	157
当第2四半期末残高	115	▲89	▲1	24	35	4,057

退職給付債務の状況について

21年3月末現在 (連結) 割引率1.4%適用 (単位:億円)

	合計
退職給付債務	376
年金資産 (時価) (注)	322
引当金	21
未認識数理計算上の差異	32

平成20年度に発生した年金資産の運用損(未認識数理計算上の差異)32億円については、平成21年度に人件費として計上する予定です。

(注) 前連結会計年度に、当社は退職給付財政の健全化を目的として、退職給付信託を設定し現金100億円を拠出しました。これにより、退職給付引当金の残高が同額減少しております。
また、当連結会計年度(21年9月)においても現金50億円を追加で拠出しております。これにより退職給付引当金の残高が40億円減少し、前払年金費用の残高が9億円増加しております。
なお、前払年金費用は、固定資産の投資その他の資産「その他」に含まれております。

減価償却費・設備投資額 (連結決算ベース)

・減価償却費・率

(単位：億円)

	20年度	21年度 第2四半期累計	21年度 (予定)
減価償却費	29.5	13.6	29.9
対売上比率%	2.2%	2.0%	2.2%

・設備投資額 (工事ベース)

(単位：億円)

	20年度	21年度 第2四半期累計	21年度 (予定)
生産設備 生産機器更新等	12.5	10.0	18.4
研究設備	8.5	1.6	4.6
営業設備他	1.9	0.9	2.9
合計	22.9	12.6	26.0

期末従業員数 (連結決算ベース)

	20年度第2四半期	20年度	21年度第2四半期
期末従業員数 (人)	2,671	2,646	2,707

株式の状況 (平成21年9月30日現在)

株式数

1.発行可能株式総数	_____	300,000,000株
2.発行済株式の総数	_____	120,847,500株

株主数

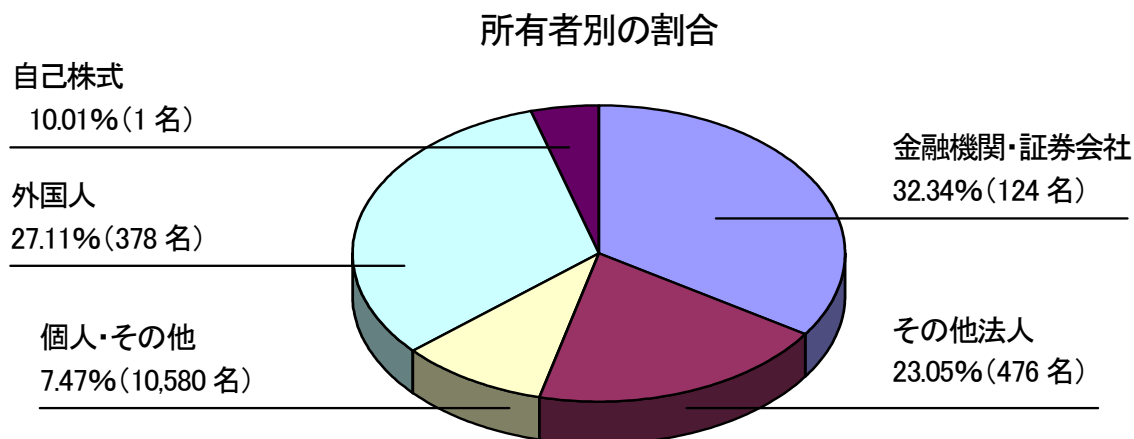
_____ 11,559名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	8,457	6.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,227	5.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,153	5.09
明治安田生命保険相互会社	3,718	3.07
株式会社 鶴 鳴 荘	3,298	2.72
財団法人 小野 奨 学 会	3,285	2.71
あいおい損害保険株式会社	2,458	2.03
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	1,908	1.57
サッチェース マンハッタン バンク エヌエイ ロントーン エス エル オムニバス アカウント	1,860	1.53
株式会社 三菱東京 U F J 銀行	1,728	1.43

(注)当社は自己株式 12,100 千株を保有しておりますが、上記大株主には記載しておりません。

株式の分布状況



(注)上記所有者別の割合について、小数点第3位以下を切り捨てているため、各項目の比率を加算しても100%になっておりません。